

寸言

沖電気工業株式会社
ソリューションシステム事業本部
特機システム事業部
事業部長
加藤 洋一



航空宇宙事業承継にあたって

この度、伝統ある日本航空宇宙工業会に入会させて頂くことになり、大変光栄に存じます。また、入会に際し、関係者の皆様方に、多大なるお力添えを頂きましたことを、心より感謝申し上げます。

沖電気工業株式会社（以降OKI）は2022年4月1日付けで、横河電機株式会社（以降YEC）様の航空宇宙事業を承継いたしました。承継にあたり、日本航空宇宙工業会様、関連各省庁、お客様にはご指導、ご協力を頂き、誠にありがとうございました。今後もこの事業承継が、日本航空宇宙業界での成功例となるように、日々努力してまいります。

承継の目的は、OKIの社会インフラ事業とYEC様の航空宇宙分野の強みを融合させ、両事業を発展させることにより、お客様及び社会により貢献することです。

YEC様は戦後の航空産業再開時より、ライセンス国産による航空計器の生産を開始され、その後、防衛事業での独自国産により技術・生産力等を築き上げられました。防衛事業で築いた技術・生産基盤等を基に、宇宙事業及び民間機事業へも展開され、民間機事業ではエアバス社等の航空機に液晶表示器を搭載するなど、多分野で航空宇宙産業に貢献されてこられました。OKIはYEC様の航空宇宙事業を引き継ぐことに加え、重大な責務も

引き継ぐことになり、非常に身の引き締まる想いです。

OKIは2020年10月に「社会の大丈夫をつくっていく。」をキーマッセージとして掲げ、OKIの強みであるモノづくりとAIエッジ技術を融合した、社会課題を解決する提案型企業への転換を図っています。加えて、OKIが目指す「デジタル(IT)技術を使って、企業、社会に大きな変革をもたらす」ためのDX（デジタルトランスフォーメーション）戦略を策定し、実行しています。

今回の航空宇宙事業の承継は、OKIにとって、新たな領域である航空宇宙産業へチャレンジすることになります。現在、DX戦略の下、社会インフラの自動化・効率化に取り組んでおりますが、航空宇宙産業においても、DX戦略を適用し、自動化・効率化等の課題の解決に積極的に取り組んで行くことで、新しい付加価値を創造していきたいと考えております。

最後に皆様のご指導、ご支援を頂きながら、微力ではありますが、OKIは日本の航空宇宙産業の一翼を担い、日本の航空宇宙産業が世界に確固たる地位を獲得し、日本航空宇宙工業会のさらなる発展に寄与してまいりますので、よろしくごお願い申し上げます。